広報 肱川

人口と世帯

	昭和40年（5月末）	昭和45年（5月末）	昭和50年（5月末）
人口 男	2,859人	2,350人	2,077人
人口 女	2,936人	2,369人	2,134人
人口 計	5,795人	4,719人	4,221人（前月比 4人増）
世帯数	1,273世帯	1,188世帯	1,104世帯

（5月中届出分）　転入した人　24人　転出した人　15人

およろこび　三人

白石　岩岡　広志ちゃん
上瑳峨谷　和気　淳ちゃん
共栄　松本　浩一ちゃん

おくやみ　八人

敷水　森岡シナヨさん（74才）
汗生　富永ヒサヲさん（81才）
中津　二宮マツヨさん（79才）
広常　宮岡トキワさん（90才）
久保　冨永　豊吉さん（76才）
〃　冨永ツ子コさん（64才）
共栄　下野　高繁さん（68才）
中居谷　玉井　圭二さん（19才）

（五月末届出分）

土づくりは農業の基本

大谷　大田忠利さん（たばこ作）の考え

近頃の農業を眺めてみると出かせぎがふえ、日曜農業が多くなり、人間が不精になってしまった感じがいたします。たばこに限らずあらゆる作物栽培には化学肥料をたくみに使い、増収をねらう人がふえてきたことは事実で、農業の基本である土地づくりが忘れられており略奪農業がくり返されております。

そうした中で大田さんがとりくんでいるのは、目新しい事柄ではなく「有機質を畑に還元する方策」言いかえれば、厩肥を合理的にどうやって土に返すかということなのです。

農業の型に二つあるという人があります。

一つは、レディメード農業でこれは既製品、できあいの農業―いわゆる農民の創意工夫によって自由に営まれる農業。

もう一つはオーダーメード農業といって注文製のおあつらえの農業―いわゆるあれをつくれ、これをつくれというおしつけの農業です。今の農業は後者の方です。

本来の農業の姿は地域の自然条件にかなった作物を作ってできたものをいかに上手に、うまく料理してたべるかということであったように思えますが……。今はどうでしょうか。一方的に食べるだけの人たちの一方的な要求によってただ黙々とものを作っているだけではないでしょうか。

農業は本来〝ものをつくるというより土をつくれ〟といわれてきましたが現在はたしてそれを実行している人が何人いるでしょうか。

〝米をつくる〟とはいわず、〝土をつくる〟といわれています。まさにそのとおりです。

「健全な肉体に健全な精神が宿る」という言葉があるように、農業にも「健全な農地に健全なうまい作物ができる」と言えそうです。

そこで、今回は久保部落の大田忠利さんの「土づくりについて」その研究の成果を紹介します。これは大洲葉たばこ耕作組合を代表して東京の全国大会で発表されたものの一部です。

「農業の原点」といわれる土づくりについてみんなで考えてみましょう。

土づくりの発想

私のたばこづくりは、昭和四十年に始まり現在まで連作しています。連作すると地力の消耗はそれはひどいものになります。

土壌に腐植分が少くなってくると土の弾力性がなくなり、保水力もおとろえ、旱害も発生しやすく、たばこの品質や収量も減少の一途をたどるようになります。この対策として稲わら堆肥一、〇〇〇㌔程度施してもろう。」このような発想で、たばこ（五〇㌃）と乳牛（六頭）に賭けました。

豊作が期待される大田さんの葉たばこ

厩肥施用の実際

厩肥は土壌中の微生物の栄養源として分解されることを知り、厩肥を使うようにしました。反面、たばこに有害ではないかという不安もあって、昭和四十八年一〇〇〇～一、五〇〇㌔施用した結果完熟したものはただこの初期生育も順調でしたが、未熟な厩肥を施用した十五㌃は移植後の苗に障害があり、生育も悪く収穫期まで葉色が落ちず悪影響がありました。

原因は未熟な厩肥は分解するときにおきる有機酸の作用によることを知りました。厩肥を使うようになって収量も多くなり、厩肥の効果が少しづつ表われ、昭和四十九年作についてはよく腐った厩肥を作るように心がけ、毎日一〇〇㌔の厩肥を野積みにして、たばこに有害な塩分の除去をはかりながら完熟化につとめた結果、一年後には、よく厩肥の「カサ」も半分程度になりました。

厩肥の施し方

厩肥を合理的に施すためには、前年度の作柄と畑の地力、土地の条件にもより厩肥の増減をはかるよう心がけ、最も多いところでは十㌃当り三、〇〇〇㌔少ないところで一、五〇〇㌔程度前年の十一月から十二月に畑全体にばらまき、スキ料二回、天地返しをおこないます。

特に留意したい点は、施肥設計にあたってはチッソ過多にならぬようにする。

ロ、石灰を七〇～一二〇㌔を施すこと。

ハ、三要素のバランスをとること。

このように努力してきた結果、最近三か年の十㌃当りの成績は

昭和四十七年二五八㌔
昭和四十七年三〇七㌔
昭和四十四年三九七㌔

と年々その成果をあげております。

終りに、昨年および一昨年とよい天候に恵まれ、豊作でしたが、その反面たばこを作る畑は極度にやせおとろえ、稲わら堆肥の少々では追いつけない状態です。化学肥料だけでは土地が全くいうことをきいてくれません。やはり農業の原点にたちもどり、有機質を土にかえすことこそ収量の確保につながる大事なことだと知らされました。

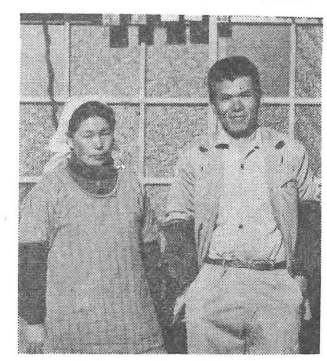
〝収益の安定は土づくりから〟が私のモットーです。

農家のみなさん共に土づくりに励みませんか。

さらに努力したいと思います。

議員さん出番です

沖野常一議員（新）



なにごとによらず内助の功は必要です―沖野さん夫婦

○議員となって

あれこれをやると〝巧言令色〟はしない。今までは作物別の団地化促進も必要。

○趣味は？

別になし。いえば機械いじり。〝物を大切に〟の精神で十三年間使用のテイラーもトラブルなし。人に頼まれて修理もする。いうなれば便利屋的存在。

○住所小藪、奥さんのトキ子さんとの間に二男三女、両親健在、年令四十四才。

○なぜ議員に

開口一番、自分としては〝いっそひまなほうでない。〟のに、また仕事が増え、また白髪も増えそう。

○町の農林業を一言

発展性なしとて、研究せずあきらめは早計。人頼みでなく、自分の経営状態はどうか、まず記帳より始め知ること、大型化、機械化という宣伝につられての投資は禁物。どうしても必要なら共同購入、農協が貸出し用機械を購入するのも一方法。

規模は小さくとも、主幹作物別の団地化促進も必要。

○議員は世話ずき、少しでもみんなのお役にたてばと思いますのでよろしく。

たよいこと。仕事のほうは地区のことも含めた町全体のことを考える。

広報メモ

○妊婦健康相談
・とき　七月九日　十三時～十五時
・ところ　肱川町公民館（町民課）

○乳児健康相談
・とき　七月十六日　十三時～十五時
・ところ　肱川町公民館（町民課）

○人権法律相談
・とき　七月十五日十時から十五時まで
・ところ　肱川町公民館
・相談料　無料（町民課）

○狩猟者講習会

昭和五十年度の講習会が次のとおり開催されます。希望者は受講してください。

・**初心者**
第一日
七月十四日　午前九時
大洲市民会館
第二日
七月十六日　午前九時
肱川五郎橋下（若宮）
・**経験者**
七月十日　午前九時
大洲市民会館
・**受講料**
(1)初心者
甲種＝七〇〇円
乙丙種＝一、一〇〇円
(2)経験者
四〇〇円
・**写真は**六か月以内に撮影した正面、上半身、無帽ライカ版一枚
・**申込用紙は**猟友会肱川支部事務局（山内電話六番）にあります。（企画経済課）

○開眼運動巡回診査と一日盲人福祉センターの実施
・とき　六月二十四日（火）九時から十五時まで
・ところ　大洲市立中央公民館
・医師　日赤病院幸塚眼科部長
・実施者　県福祉課
希望の方は右の期日に受診して下さい。（町民課）

川をきれいに（「大切に」運動七月の目標）

おとうさんお元気ですか

大谷　前田末美

ふるさとを遠くはなれて日夜仕事にはげんでおられるおとうさん、お元気でしょうか。私たちは「出かせぎをしない農業経営」をめざして全ての面から積極的に考える必要があります。今回から小中学生の作文を紹介することにしました。子どもたちの父を思う心が切々とつたわってきます。

わたしの家族は、はじめおばあさんを入れて、七人家族でしたが、いろいろあって今家にいるのは、母とわたしだけです。父は近くの家のほり内という人が大阪で、小さな会社を受けもっているので、そこへはたらきにいき、どぼくとほどうをやっています。家に帰るのは、三ケ月に一回ぐらいですが、今は電話があるので、いつでも話ができます。父がいないときは、女らしいしずかになります。

まい年のことですが、こいい表わせないほどさびしいこう思います。

わたしもできるだけせわをかけないよう勉強も、お家の手伝いもしっかりして

父が帰ってくる　知らせ　い気持ちです。両親がそろってくれることが本当に大切なことをこのごろつくづく感じます。でも父がいなかったりする人もいることを考えたら、わたしなんか、そんなぜいたくは、いっておれません。ですから

やはりがまんしなければなりませんが、早く家族がそろって、楽しく毎日が送られる日を楽しみにしています。

父が大阪にいくと、あたりがしーんとしてぶきみなくなります。

母がいないときは、わたしの話す番になり、家の中は小鳥屋みたいになります。

とにぎやかになります。母がいるときは、母の話す番父がいないときは、わたしなかったりする人もいることを考えたら、わたしなんか、そんなぜいたくは、いっておれません。ですから

やはりがまんしなければなりませんが、早く家族がそろって、楽しく毎日が送られる日を楽しみにしています。

わたしもできるだけせわをかけないよう勉強も、お家の手伝いもしっかりしていこうと思います。

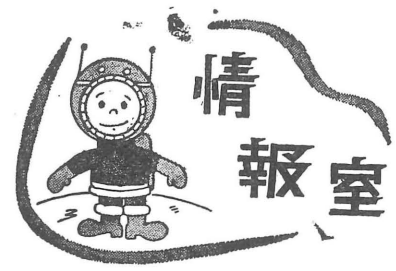
をうけるとうきうきしまって家にいてくれることが本当に大切なことをこのごろつくづく感じます。でも父がいなかったりする人もいることを考えたら、わたしなんか、そんなぜいたくは、いっておれません。ですから

やはりがまんしなければなりませんが、早く家族がそろって、楽しく毎日が送られる日を楽しみにしています。

わたしもできるだけせわをかけないよう勉強も、お家の手伝いもしっかりしていこうと思います。

父が帰ってくる　知らせ　い気持ちです。両親がそろ

情報室



花いっぱいコンクールの実施要領

「大切に」運動の中で、昨年は家庭の花壇コンクールを行ない大勢の応募がありましたが、今年はグループによるコンクールを行うこととしました。

応募の要領は次のとおりです。多数応募されるよう待っております。

①（応募資格）町民でつくられたグループ（何人でもよい。部落全体または十人組としてでもよい。

②（応募の方法）既存、改良、新設など花に関するものの何でもよい。

③（しめきり）七月三十一日までに、町民運動室または、近くの部落長へ申込むこと。（電話でもよい。）

④（審査）九月に行って十月に発表。

⑤（賞状、賞品）

(1)最優秀賞　一点

(2)優秀賞　三点

(3)努力賞　五点（賞品だけ）

（町民運動室）

苗木の寄贈

大谷の清水萬喜男さん

今年度から「明るい環境づくり運動」をすすめている大谷地区で、広常部落の清水万喜男さん（三十一才）からサツキとさくら苗木の寄贈があり、関係者を喜ばせました。

サツキは四年生の東京サツキ、クマノ系夕霧など五種類を約七〇本、桜は俗にバカ花と呼ばれているベニバナウツギを一三〇本余、これを五月中旬、公民館や三笑会の人達が、共楽園広場と公民館から大谷小への県道沿いに、ていねいに植付け作業をしました。

ダム情報

これから肱川の水に親しむシーズンがやってきました。また出水のシーズンでもあります。

◎ダムから水を流すときは、水かさが増し危険です。

○天気のよい時でも、ダムから水を流すことがあります。

○ダムから水を流すと、川の水位が急に高くなります。

◎ダムから水を流すときは流す一時間前にサイレンが五回鳴ります。サイレンが鳴ったときは、急いで河原から安全な場所に上ってください。

○河原で遊んだり、魚釣りをしているとき。

○仕事をしているとき。

○水泳や、キャンプをしているとき。

○河原に自動車を乗入れているとき。

○こどもたちや、よそから来た人たちには、お互に注意しあいましょう。

◎台風が近ずくときや、大雨が降りそうなときは、特に注意して、今年も肱川で水の事故が起きないよう皆さんのご注意をお願いいたします。

〝水難事故から、こどもたちを守りましょう〟

こんにちは赤ちゃん

下鹿野川　**和気順ちゃん**（生後10か月）

下鹿野川、和気邦嗣さんの長男（第一子）

順ちゃんはお母さんのあたたかい、やわらかな乳房の感触を毎日あじわいながらすくすくと育ちしあわせな毎日です。

お母さんが母乳で育てようという努力と、また順ちゃんがそのお母さんの気持を受けとめ、乳房をたえず力強く吸ったことにより、出産後一か月二か月と日がたつにつれ、ポンプの水をくむように母乳分泌がよくなり、順ちゃんの発育は順調です。

四か月の終りより離乳の準備をはじめ、現在、昼間は離乳食で母乳は夜二回与えています。

この母乳栄養についてはお母さんの努力はもちろんですが、主人の協力があり、分泌が良くなったと聞いています。乳房のマッサージ、温罨法等お母さん一人ではなかなか大変です。

家族の方達の協力とお母さんが母乳で育てたい一心で、あきらめないで努力せられたことで分泌が良くなったのだと思います。

順ちゃんは今数人のいとこさん達と仲良く成長されています。

足が丈夫でつかまり歩きができるようになりました。赤ちゃんは何でも手当りしだいさわってみたり、物を口に入れたりします。

どうかすこやかに育てくださいませ。

赤ちゃんは、母乳をほしがっています。現在妊娠中のお母さんも今から手当をし、出産後十日や二十日であきらめないで努力したいものです。まご家族の協力も大切です。

誕生日検診で健康相談が無料

町では、県の指定を受けて「誕生日検診」を実施することになりました。

「誕生日検診」とは、今年度中に四〇才、四五才、五五才の誕生日を迎える方々に無料で健康診断を受けていただこうというものです。

四〇才といえば、職場では働き盛り、家庭では一家の柱ですが、統計では、この年代から脳卒中、がん、心臓病が急に増えています。このため、いま元気だと思っている人にも、内科診察、血圧測定、尿検査、心電図検査を実施するものです。該当者には、順次、医療機関を指定して「無料受診票」を送付しますからこの機会に、ぜひ、自分の健康状態をたしかめておきましょう。

また、四〇才から六四才までの方々には、健康手帳を交付して、各種検診の結果を記録していただくことにしています。

造園設計や植木の刈り込みなどの技術習得に励んでいます。

公害雑草

セイタカアワダチソウ

―を駆除しよう―

セイタカアワダチソウとは、高さが一・五㍍～二㍍にもなる雑草で、最近、町内のあちこちにみられます。

四月から十月に成長し、開花は、十月～十一月で茎の先に多数の黄色い花が穂状に咲き群生しています。

この雑草は、北米から侵入してきた帰化植物で、花粉によってゼンソクや、結膜炎、鼻炎などをひきおこす有害植物とされています。この恐ろしい有害雑草は、種子と地下茎の両方で繁殖し、適当な日照と荒地があれば、どこにでも生育する生命力旺盛な雑草です。種子は、一株に数千個の種子がつき、風によって飛散、繁殖します。

地下茎は、年々範囲が拡がり、深さは、五㌢以内の浅いところに分布しています。

駆除のしかた

○草が伸び切らないうちに一箇月に一回程度刈り取る。

○開花前に草を刈り取り焼却する。

○可能な場所では、水をためて根をくさらす。

○地下茎を掘り起し焼却するか冬期に株を掘り起して寒気にさらす。

○除草剤による場合は、薬害防止などのため、農協駐在の農薬改良普及員にご相談下さい。

自然の野草や、皆さんの身体と、かわいい子供の健康を守るため、町民総ぐるみで早期に駆除しましょう。

セイタカアワダチンウ

交通安全願いカーブミラーの清掃とおりづる配布（青年団）

全国的に繰り広げられた春の交通安全運動の一つとして、あらゆる機関団体が協力して、それぞれの立場で運動を行いました。

肱川町青年団ではこの運動期間中に、自主的に交通安全運動の活動を行うことに決め、五月十七日に、大森団長他十九人の青年が参加し、男子青年は、肱川町内にあるカーブミラー、交通標識、をきれいに清掃しました。

中にはよごれて見えにくい標識もありましたが、これでよく見えるようになり町内の人はもとより町外から来られる人々にもよろこんでもらえるでしょう。

また、女子青年は、みんなで協力して作った、百数十のおりづるをつくり、鹿野川大橋のたもとで運転者に配り、お茶をサービスしました。

おりづるを渡した運転者のみなさんが、うれしそうに受け取ってもらっているのが印象的でした。

来年も創意工夫をして交通事故防止につとめたいと青年達ははりきっています。配ったおりづるの下には「せまい日本そんなにいそいでどこへゆく」等という交通安全標語を書いたビラがつるされていました。

「自分の顔よりもきれいに」とカーブミラーをみがく青年団員

部落自慢ばなし

大和　藤本勝高

肱川の清流に沿って走る国道一九七号線、その国道より、肱川にかかる鹿野川大橋を起点に上流に向い約一・五㌔の広範囲に及ぶ三十五戸の大和部落は、三つの集落からなり、まず鹿野川ダムを見上げる所に位置する下石丸班を中心に（ここに部落集会所がある）遠く鹿野川園地、保養センターを望む丘陵地に集落をなす上石丸班、人造湖を見下す斜面に点在する久下班があり、景色の変化に富んだ地域的にも恵まれた部落です。

また、観光肱川で有名なダムをはじめ、肱川発電所、鹿野川荘、町民プール等、いろいろな施設があるのも自慢の一つです。また町の中心地に近く、サラリーマンも多くそれぞれの仕事に従事しております。

後継者多く出稼ぎ者なし

農家では、栗、しいたけ、を主眼に畜産、米、養蚕、林業、花木、とその家庭に適した経営を行っていますが、何といっても出稼者がないこと、二〇代、三〇代の後継者が多いことが自慢ではないでしょうか。このような若い衆の部落ですから、バレー、ソフト等スポーツも盛んに行っております。四月の町民運動場完成記念バレー大会では見事優勝しました。

また、町税完納表彰式で、大和納税組合、二十年間の完納表彰の栄に浴しました。

事業ではまず、道路網の整備、農構事業による栗園の造成、テレビ共同受信施設、それに、飲料水不足の解消と万一に備えて久下地区水道及び、消火栓施設等数々の事業を手がけました。

このように、部落全体の大規模な事業あるいは、スポーツを通じて部落民一人一人の力の結集と交流によって部落は今後ますます栄えていくことでしょう。

泰平一家

台所用品を清潔にしよう

食品や食物を洗うところつまりいちばん清潔にすべきところが、いちばん細菌の巣になっているのが日本の台所の特徴だといわれています。

スポンジや、タワシも日光消毒を

流しのスポンジ、タワシゴミ受けなどはいつも湿っています。

スポンジ、タワシも予備を用意しておき、一日おきに日光消毒をしましょう。

糸の輪をつけておけば、物干しなどに通して簡単に干せます。

梅雨どきのまな板は熱湯消毒を

まな板は細菌の巣になりやすいもの。

夜、料理が終ったとき洗剤をかけタワシでゴシゴシあらい、よくゆすいで熱湯消毒をし、使わない時はぶらさげておきよく乾かすことです。

ふきんも衛生的に

ふきんは、いつも乾いたものを使い、ぬれたふきんは一か所にまとめておき、手のすいた時に洗い、熱湯消毒してできるだけ日光に当てて干します。

乾いたふきんは、きちんとたたんでフタのない箱に重ねておき、このふきん箱（または引出し）に、いつも二、三枚予備が残っている感じで、まめに洗っておくこと。

洗剤は必ず台所洗剤を使うこと。